

第46回 わたしからの人権メッセージ

作文募集

応募者全員に
参加賞を進呈します。

～「書く」ことを通して「人権」について考えてみませんか～

応募期間 **2025**(令和7)年 **7月1日(火)** >>> **9月1日(月)** **必着**

作文のテーマ

- 同和問題 ● 女性の人権^{※1} ● 障がい者の人権 ● 外国人の人権 ● こどもの人権
- 高齢者の人権 ● LGBTQに関する問題 ● 平和と人権 ● 環境と人権
- 感染症(ハンセン病問題・HIV感染・新型コロナウイルスなど)と人権 ● 犯罪被害者やその家族の人権
- インターネットと人権 ● その他さまざまな人権について(災害と人権、アイヌの人々、ホームレスなど)

^{※1} デートDV(交際相手からの暴力のこと)、セーフティさかい(女性や子どもをはじめ、すべての市民の安全・安心に向けた取組)を含む。

応募対象 堺市内に在住・在学・在勤の方なら、どなたでも応募できます！

記入方法

- ① 400字～1200字程度(400字詰め原稿用紙またはます目入り用紙を使用してください。)
- ② たて書き(パソコンによる印字も可)
- ③ 1行目に題名、2行目に(在学の場合は学年と)名前、題名の右(枠外)に作文のテーマを記入してください。

応募方法

- ① **【団体応募】**(学校等の団体で応募される場合) ★**団体応募には「応募用紙」が必要です。**
学校等の団体ごとにとりまとめた作文と、応募用紙と一緒に下記応募・問合せ先に郵送または持参(市立小中学校は書留送付可)してください。
※応募用紙は下記「応募・問合せ先」ホームページからダウンロードできます。
※堺市立学校園の方はC4thの配布文書(人権推進課)もご利用いただけます。
○応募する前に必ず本人へ応募の承諾を得てください。
また、特選受賞の際は作品が作品集等に掲載されることへの承諾も得てください。
- ② **【個人応募】**
原稿用紙の裏に住所・連絡先の電話番号・年齢を明記し、下記応募先に郵送または持参してください。

■審査

- (1)審査会にて、特選20編と入選30編を選びます。
- (2)特選及び入選の方には11月にお知らせします。

■表彰式・作品発表

特選作品に選考された20名の方を「人権を守る市民のつどい」(12月上旬開催予定)で表彰します。
代表4名の方には、作文を発表していただきます。

■特選作品の公表

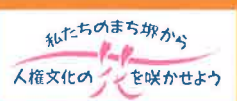
- (1)掲載にあたっては、作文の趣旨を損なわない範囲で一部修正する場合があります。
- (2)公表にあたっては、原則として名前を、在学の方は学年も掲載します。

■その他

- (1)応募者全員に参加賞を進呈します。
- (2)応募は個人のオリジナルで、未発表のものに限ります。
(ただし、2024年9月3日以降に書かれたものとします。)
- (3)特選及び入選の方には賞状と記念品を贈呈します。
- (4)特選作品は特選作品集や当協議会ホームページなどに掲載します。
- (5)応募作文の著作権は、当協議会に帰属します。
- (6)応募作文は返却しません。
- (7)応募者の個人情報は本事業の目的以外には使用しません。

◆ 応募・問合せ先 ◆

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3-1 堺市人権教育推進協議会(堺市役所人権推進課内)
「わたしからの人権メッセージ」係
・TEL/ 072-221-9280 ・FAX/ 072-228-8070 ホームページ <https://www.jinkenkyo.jp>
主催:堺市人権教育推進協議会 後援:堺市・堺市教育委員会





「自分のその目でたしかめて」 (小学生)

「差別のない世界をつくろう」。これは、世界中で言われている言葉です。差別とは何なのか？ぼくが休みの日にお母さんと一緒に自転車でパン屋に行った時のことです。道は狭く車も多いところに、反対側から怖そうな外国人のおじさんが来ました。お母さんは自転車の運転が未熟なぼくを気にかけて、先に行かせてもらえるように相手の人に会釈をしました。すると、道を譲ってくれたにもかかわらず、姿勢を正してとても丁寧なお辞儀を返してくれました。その時に気がつきました。知らず知らずのうちに「〇〇っぽい、〇〇した方がいい。」と、自身の体験で得た価値観ではなく、人から聞いた話や見た目を基準にその人を判断していたのです。もしかすると、今も残る差別のほとんどが、ぼくと同じように誰かの経験や考えが一人歩きしてみんなの心に根付いてしまったものかもしれません。自分自身の目で実際に確かめて感じたことを信じていけば少しずつでも意味のない差別がなくなるとぼくは信じています。

弟の成長で感じた性別による偏見 (中学生)

今日の朝、私は新しいジーパンをうきうきしながらはいた。そして小さくなったジーパンは弟にあげることにした。その時、私はふと、「ジーパンは女でも男でもはけるからいいね」と言った。でもその後、私は自分の発言に疑問を持った。この言い方だと、まるで他の服は女だけ、男だけしか着てはいけないと言っているようなものではないか、と。最近、世の中は少しずつ変わり始めている。社会は少しずつLGBTQの人々に歩み寄っている。これからもっとこういった取り組みが増えていき、どんな価値観を持った人でも生きやすい世の中になってほしいと思う。そしていつかは、LGBTQという呼び方がなくなるほどこの価値観が受け入れられるような世界をみんなで作っていききたい。

「小さな差別」 (中学生)

私は自分なりにどのようにしたら差別をなくせるかを考えてみた。一つめは、差別の経緯などについて一人一人がよく知ることだ。簡単な例を挙げると「黒人差別」がある。黒人より白人の方が偉いという風潮が広まり、今でもそれが残ってしまっている。深い内容まで教えることにより自分で考えるきっかけになり、差別、人権に対する意識が変わると考える。二つめは小さな差別をなくすことだ。相手は何もしていないのに偏見や見た目、言語の違いなどで差別をしようと思っていなくても知らぬ間に「小さな差別」をしてしまっていることがある。これらのことからまず、世界をすぐに変えようとするのではなくてゆっくりでもよいので一人一人の意識を変えていく、そして一人一人が自分で少しでも差別、人権について考えることがすべての人々が笑って過ごせる世界を創る第一歩になると考えた。

親からの花丸 (高校生)

みなさんに質問です。「どうせ無理。」「こんな自分なんて。」と思うのが癖になってませんか。私は思っていました。というか、今でも思います。そう思うのはあまり良くないと分かっているけどつい思ってしまう。なぜなら、親から否定されるのが怖いからです。何か挑戦してみようと思っても、親から「どうせできないよ。」と言われるだろう、だったら、どうせ自分は無理なんだと思ってしまう。それがどんどん癖になって、思わないようにしてもなかなか抜けられません。親のせいになりたいとかそういうことではなく、親からの発言に全てを否定されているように感じてしまうのです。「どうせ、あなたは無理。」「こんなの出来てあたり前。」などされると自分に自信がなくなり、自分の事なんてどうでもいいやと思うようになり、ずっと親の言いなりになってしまいます。だから、親にお願いします。子育ては凄く大変かもしれないけれど、子どもはこれからどんどん成長していきます。たくさん失敗したり、出来なかった事が出来るようになったり、自分の気持ちをはっきり言えるようになっていくと思います。そのたびに花丸をあげてほしいです。「よく頑張っているね。」と声をかけてあげてください。子どもに「どうせ無理。」「こんな自分なんて。」と思ってほしくないです。どうか、「あなたならやれる。」「自信をもって、大丈夫。」と言ってあげてください。